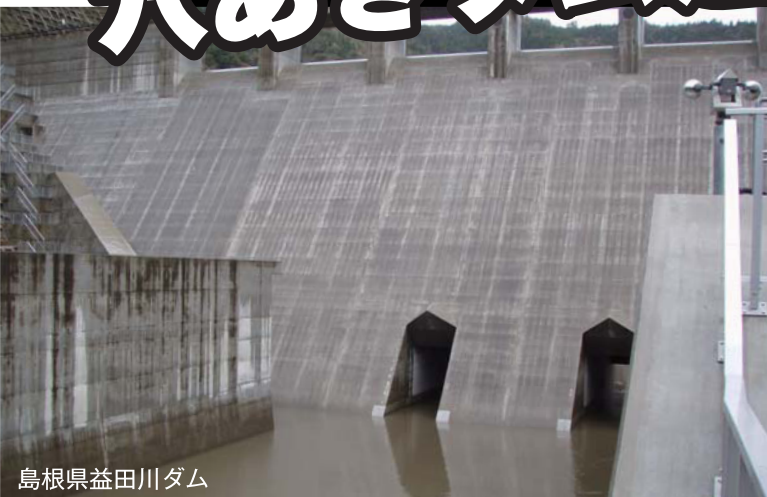


「偽りの治水」は未来を破壊します。 穴あきダム建設の10年後？



島根県益田川ダム

穴あきダムなら環境にやさしい？
鮎への影響は少ない？
穴あきダムなら、早く、安く治水ができる？
県の主張は、すべて科学的な根拠に
乏しい虚構である事がわかりました。
「**科学をねじまげている**」
参加した科学者の総意です。

山形県の
漁業振興策

ダム建設して「ダムのない川以上の清流」って何!?



※5/17, 18のシンポジウムにて科学者達が激論！ホームページ www.ogunigawa.org に当日の動画を掲載しています。

環境影響 朝日田 卓 北里大学教授

県のいう「鮎の生息環境に**影響が少ない**」ということは「**影響がある**」ということです。
「島根県の益田川ダム下流では低濃度の濁り(～10mg/l)が平常時でも連続しています。
その低濃度の濁水(3～6mg/l)でも**鮎の漁獲高が5分の1**になるなどの実例が岩手県でありました。」
「小国川ダムの穴は小さく、小洪水を減少させます。攪乱が減ると川底の環境が変化し、アユの産卵環境や
餌である藻類にも影響します。長期的にみれば生物多様性を失い**川が死んでしまいます**。
「全国屈指の清流の環境破壊のモデルとして、全国の問題になるでしょう。」

漁業振興 鈴木 康友 つり人社社長

「この川はあらゆる釣りメーカーが友鮎釣り大会をするスゴイ川。ダムがないから川が澄むのが早く、
美味しい鮎が釣れるのです。**ダムができたら、それだけで釣り客は来なくなります。**」

穴の閉塞 今本 博健 京都大学名誉教授 大熊 孝 新潟大名誉教授

「穴あきダムではどのような対策をしようとも閉塞の恐れを解消することはできず、**最上小国川ダム
のように穴が小さい場合、閉塞の可能性は高い**。閉塞すればダムは機能せず流域は危険にさらされます。」

安全安心について 今本 博健 京都大学名誉教授 嶋津 暉之 水源連代表

川床が高い状態の赤倉温泉街はダムができても危険です。河床掘削や護岸整備は優先されるべきであり、
技術的に可能です。実はそれをおこなえば**ダムは不要**です。

県は、ダムさえつくったらさようなら。赤倉温泉の真の振興策なんか考えていません。
10年後、年22億円の鮎の経済効果が失われ、流域自治体の消滅に拍車をかけます。